

電子・情報工学系

教員数	教員等数 (人)	教 授 28 (28)	助 教 授 23 (22)	講 師 16 (15)	助 手 4 (7)	技 官〔準研〕 — (—)	
	異動状況 (人)	退職・転出 3 (4)	昇 任 4 (3)	採 用	学 内 — (—)		
研究活動	研究発表 (件)	論文・著書発表数		学 会 発 表 数			
		国 内	国 外	国 内	国 外		
		103 (87)	62 (77)	255 (257)	218 (184)		
	受賞数(件)	20 (48)					
	研究費等		採 択 件 数	採 択 率 (%)	金 額 (千円)		
		科学研究費	48 (46)	61.7 (49.4)	直接	138,400 (125,300)	
		学内プロ	16 (19)	42.1 (45.2)	間接	4,560 (3,150)	
奨学寄附金件数・金額		21件	14,833千円	(26件	21,390千円)		
受託研究件数・金額		20件	直接 96,745千円 間接 13,676千円	(17件	直接 72,300千円 間接 7,589千円)		
受 託 研 究 員	人 (人)						
施設・設備							

・ () は前年度の数値を示す。

1 電子・情報工学系の活動

人事は引き続き精力的に行っており、4ポストについて公募を行ったところ83名の応募者があった。これ以外に着任済みの新任者は3名、昇任者は4名であった。一方、退職・転出者は3名であった。本年度末の在職者(教員)71名中の5名が外国籍の教員である。

研究活動は表に示すとおり活発に行われている。研究活動のうち、TARAセンターのTARAプロジェクトに関しては、平成13年度発足の田中プロジェクト、平成14年度発足の椎名プロジェクトと寅市プロジェクト、平成15年度発足の岡本プロジェクトの4つが実施中である。田中プロジェクトは2期目への延長が決まっている。

学内の情報化に関しては、TWINSへの貢献を引き続き行っている。また、大学内計算機ネットワークシステムの管理・運営、及び次期大型・分散システムの仕様策定に多くの学系教官が貢献している。

研究費に関しては、昨年度に比べて、科研費は微増(採択件数0.4割増・金額1.1割増)、奨学寄附金は社会の状況を反映し採択件数・金額共に減少した(採択件数1.9割減・金額3.1割減)。受託研究は堅実に増加を続けている(採択件数1.8割増・金額3.8割増)。特記すべきは、5年計画で総額425,000千円のCREST研究が採択されたことである。また、総務省戦略的情報通信研究開発推進制度による3年計画の研究が採択された(総額47,960千円)。科学技術振興調整費は継続1件(17,884千円)および民間等との共同研究は15件(16,943千円)であった。

国際交流に関しても、文部科学省の在外研究員として1名が派遣された。受け入れに関しては、日本学術振興会の外国人招聘研究者1名、外国人研究者5名、中国政府派遣研究員1名、その他1名を受け入れている。

2 自己評価と課題

研究棟の新設、実験室空調設備の更新等、研究室・実験室の不足や環境が少しずつ改善されてきているが、更なる努力が必要である。また、外部資金の獲得、研究発表を通じた外部への情報発信などについても更に努力を重ねる必要がある。法人化により運営の主体は大学院へ移管されるが、大学院の発展に協力して行く必要がある。

3 その他特記事項

筑波大学開学30周年記念事業の一環として、Web TechnologyとComputer Scienceに関する第5回東アジア研究型大学協会(AEARU)合同ワークショップを平成15年10月15日と16日に開催した。80名の参加登録があり、活発な討論が行われた。